

# 東京 レポート

## 『市民社会』創造の 軌跡を未来につなぐ

ボランティア・市民活動情報資料センターがオープン!



情報資料センター内部の様子



めっせ・TOKYO 2003の参加者など多数の方に見守られてテープカットが行われた

### 東

京ボランティア・市民活動センター(以下、TVAC)では、ボランティア・市民活動に関する文献を集め、広く市民の皆様

書資料などの文献を約一万三〇〇〇冊保管し、三八の分類に基づいて開架しています。

当日は、ボランティア・市民活動の推進と、情報資料センターの設立に向けてご尽力くださった方々にお集まりいただき、オープニング・セレモニーを『めっせ・TOKYO 2003』の特別企画として開催しました。

この情報資料センターは、TVACが二〇年以上にわたって収集してきた都内および全国のボランティア活動の歩みを記録した資料や、市民活動やNPOに関する研究論文、海外資料、社会福祉に関する重要な図

はじめに、TVAC運営委員長の仲村優一(なかもらゆういち、日本社会事業大学名誉教授)より、「わが国にはさまざまな分野のボランティア・市民活動における図書資料を総合的に収集して開架する施設はほ

んどありません。この情報資料センターが、日本におけるボランティア・市民活動に関する文献研究に貢献できる大きな社会資源となることを目指していききたいと思います」と、情報資料センターの存在意義と役割を明らかにしました。

続いて、TVACの前身である東京ボランティア・センターの初代所長である吉澤英子(よしざわえいこ)さん(大正大学教授)からは、「一九八一年の東京ボランティア・センター立ち上げ時より、ボランティア活動の資料を集め、それらの情報を広く発信するセンターを目指して、

当時のスタッフとともに苦勞しながら収集と分類をすすめてきました」と、市民たちの活動に関する情報資料の収集と発信の必要性を強く感じ、努力してきた経緯についてお話しがありました。

最後に、TVACの山崎美貴子(やまざきみきこ)所長より以下のようなあいさつがありました。「情報資料センターには、市販の図書だけではなく、市販されていないボランティア・グループや市民活動団体の手作りの資料などもあり、日本におけるボランティア・市民活動の歴史を学ぶ上で貴重と思われるま

す。この情報資料センターが広く利用されることを願うとともに、こうした資料に残されている市民たちの軌跡を振り返りながら、市民社会の創造にむかつて進んでいきたいと思っています」

関係者のあいさつの後、多くの方々に見守られながら、仲村委員長、吉澤前所長、そして、資料の収集・分類に大きく貢献した情報担当専門員の故内藤美登里(ないとうみどり)さんのご家族によるテープカットが行われました。

TVACでは、今後、情報資料センターにおける図書資料のさらなる充実に取り組みながら、今まで市民たちの歩んできた道のりを多くの市民たちに伝えつつ、その熱い思いや夢を未来につなげていきたいと思っています。

**ボランティア・市民活動  
情報資料センター**

〔利用内容〕

- 図書資料の閲覧
- 蔵書検索 など

※利用登録料として、初回利用時に500円をいただきます。ただし、TVACサポーターは無料です。

この情報資料センターを、情報資料の分類に多大なるご尽力をいただきました故内藤美登里さんに捧げます。東京ボランティア・市民活動センター スタッフ・関係者一同